

平成30年度第2回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：平成30年6月15日（金）13：30～17：00

場 所：市民活動総合センター ミーティングルーム

出席者：

（委員，敬称略）吉田 忠彦（近畿大学教授）＜委員長＞
中井 歩（京都産業大学教授）＜副委員長＞
伊豆田千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）
重野亜久里（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと代表）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
土江田雅史（公認会計士）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域自治推進室長	猪田 和宏
市民活動支援課長	山口 明裕
市民活動支援係長	浅堀 知哉
担当係長	長尾 さやか
担当	景山 佐織
担当	嶋田 優大

傍聴者：3名

取材者：なし

議 題：平成29年度いきいき市民活動センター評価報告案の検討等について

開催概要

1 開 会

2 議題説明

事務局より，平成30年6月6日に開催した第1回評価委員会（平成29年度市民活動活性化事業報告会）で報告のあった9センターの事業内容及び当日委員から出された意見等に基づき，事務局で作成した評価報告案について，検討いただきたい旨説明した。

3 議 事

平成29年度いきいき市民活動センター評価報告案の検討等について

<北いきいき市民活動センター>

（委員）

事業の経費見直しのために，夏祭りで使用するテントを購入し，他の事業にも活用したことは評価できる。

（委員）

テントを購入したことを評価するという表現にすると，他のセンターもただ単にテントを購入するという流れができるかもしれないので，波及効果を生みだそうという姿勢を評価するという

表現はどうか。

(委員)

波及効果が生まれるような取組みを企画，準備段階から考えたことは評価できるという表現はどうか。日常的にテントを使用することにより，災害があった時に，テントを組み立てることができる人が増えるなど，防災の面からもいいことである。

(委員)

前センター長がプロの歌手だったということもあり，29年度は音楽に関係する事業が行われた。本委員会で活性化事業が夏祭りだけではよくないと意見してきたが，最近多彩な事業が行われており，評価できるのではないか。「スタッフの人脈，特性を活かした新たな事業を展開している」と記載するのはどうか。

(委員)

「公金収納業務については，会計検査等で若干の不備が指摘されたため，指摘事項を踏まえて改善に努めてほしい。」という記載の根拠は何か。

(事務局)

29年度，京都市会計室が実施する会計検査において，何点か指摘事項があったものである。

<岡崎いきいき市民活動センター>

(委員)

公金収納業務の評価について，ほとんどのセンターに「会計検査等で若干の不備は指摘したが，概ね適正に行われている。」という記載がされている。

(事務局)

どのセンターも京都市に提出される書類の中に，軽微な誤りがあるため，附帯意見に記載している。

(委員)

全センターに記載するのであれば，前段のところ記載してもいいのでは。

(委員)

岡崎いきセンは指定管理者が NPO 法人音の風であり，音楽を専門，得意分野としているが，事業が音楽に偏っているのではないか。

(委員)

写真やチラシの講座も行っている。

(委員)

評価委員会として，それぞれの指定管理者の特徴を活かして事業を展開することを評価するのか，地域課題を解決することを評価するのか，どちらを評価すべきか難しい。左京東部や左京西部のように，指定管理者の専門，得意分野は劇であるが，地域に合わせて高齢者向け事業を積極的に行っているのだから，岡崎いきセン周辺でも同様の課題があるのかもしれない。

(委員)

岡崎いきセンの事業に関しては，市民活動団体を知ってもらうということで止まっているので，今後は，市民活動の担い手を主役にした切り口で事業を展開するなど，より具体的な支援を行ってほしい。

(委員)

岡崎ワールドミュージック工房では，地縁団体から NPO ができたということだったので，今

後はより、地域の地域団体、活動団体を担い手として育て、自立できるような支援を期待する。

(委員)

平成 30 年度に向けた助言等のところに、「市民活動の担い手が主体的に活動できるように」支援を継続していただきたいと付け加えてはどうか。

<左京東部いきいき市民活動センター>

<左京西部いきいき市民活動センター>

(委員)

左京東部、左京西部ともに同じ指定管理者であり、センター長も同じである。

(委員)

センター長以外の人材が育っていないのか。

(事務局)

事業に関しては、いろいろな職員が担当しているが、全体の管理はセンター長が行っている。

(委員)

左京西部と同じ指定管理者ということで、連携しやすいという良さはあるが、事業の進め方が似ており、オリジナリティがないように思うので、もっと活かしてほしい。指定管理者として、左京西部は 2 期目なので、1 期目との違いがあるはずであり、左京西部の事業に関してはもう少し発展的になってもいいのではないか。

(委員)

高齢者を対象とした事業が多いが、高齢者を事業の主役として行ってはいない。

(委員)

回想法や盆踊りは成功していると思うので、今後は元気な高齢者を主役とした事業を行ってほしい。左京東部、左京西部、それぞれの地域に合わせたプログラムを行っていただきたい。30 年度に向けた助言としては、左京東部には「高齢者が主体となっていく事業を期待する。」、左京西部には「地域の特性を活かし、左京西部ならではの事業プログラムを期待する。」と記載するのはどうか。

<中京いきいき市民活動センター>

(委員)

評価項目のうち貸館事業の利用者満足度の表現方法の違いは何か。

(事務局)

年 1 回実施している窓口サービス評価・実践制度の結果を基にしている。

(委員)

満足ではないという回答があったことについては、サービスの質が低いという消極的な批判、センターを良くしようという積極的批判、両方の可能性があると考えられる。中京いきセンや下京いきセンは設備やロケーションが良かったため、期待値が上がっているのではないか。

(委員)

活動を発表する場の創出から、今後は参加団体の支援を強化することに移行してほしい。

(委員)

どのような表現がいいか。

(委員)

ゆくゆくは参加団体だけで、「自主的、主体的な」事業が行えるように支援することに期待するという表現はどうか。

(委員)

活性化事業についてだけでなく、「これまでの交流や親睦を活かし、さらに地域団体の活動が自主的、主体的に行えるように支援することも期待する。」ということを加えてはどうか。

<東山いきいき市民活動センター>

(委員)

利用率のデータはあるか。

(事務局)

本日の資料として、利用件数のデータはつけている。

(委員)

助成金の相談をしているなど、しみセンのランチとしての機能を果たしており、市民活動への関心層を掘り起こしていることは評価できる。

(委員)

活性化事業に関しては、若者向けの事業が多く、高齢者を対象とした事業が少ないように感じる。

(委員)

学校ごっこでは多様な年齢層を巻き込んで実施している。

(委員)

東山いきセンの評価としては、事務局作成の案でいいのはいないか。

(事務局)

御意見いただいた「助成金の相談」の評価を平成 30 年度に向けた助言等の施設管理等の項目に追記しておく。

(委員)

少し戻るが、岡崎いきセンの評価案について、「音楽を軸とした事業だけでなく、高齢化など地域の課題に目を向けた取組を実施してほしい。」ということを追記してはどうか。

<下京いきいき市民活動センター>

(委員)

下京いきセン周辺の地域には、市立芸術大学の移転が予定されており、芸大生のアイデアを事業に取り入れてほしい。

(委員)

下京いきセン周辺に、崇仁新町がオープンするなど、崇仁地区全体では盛り上がっているが、いきセンとしては、盛り上がっているような感じは受けない。

(委員)

利用件数としても、あまり伸びていないので、地域が盛り上がっているのだから、もっといきセンを活用してほしい。

(委員)

場所がいいので、利用件数が伸びていないのは、ただ単にいきセンを知らないということが大きいと思う。

(委員)

いきセン周辺地域のエリアマネジメントが活発な印象を受けたので、会議やワークショップに使って、活動の拠点にしてほしい。

<吉祥院いきいき市民活動センター>

(委員)

もう少し多様な団体と連携して事業を行うこと期待する。

(委員)

新しい参加者や担い手の発掘を促すような形で事業が展開されることを期待する。

<上鳥羽北部いきいき市民活動センター>

(委員)

PTAのOB,OGなど、地域の比較的若い層を掘り起こそうとしている。

(委員)

上鳥羽北部はエコを軸に事業を行っており、積極的にエコの事業を行っていることを評価するという表現を加えるのはどうか

(事務局)

昨年度の指摘で、「今後も、「エコ」をキーワードにして他の分野の団体や地域団体との交流など横のつながりを幅広く広げていくことを期待する。」としている。

(委員)

事業を行うにあたり、児童館と連携もみられ、立地条件も悪い中でよくやっている。